令和７年度「災害時学校支援体制構築事業」

委託業務成果報告書

石川県教育委員会事務局 教育振興推進室

目次

１．石川県学校支援チームの概要

２．意義・効果の周知

（１） 運営協議会

（２） 校長等説明・講習会

３．隊員の養成

４．各自治体への参考ポイント

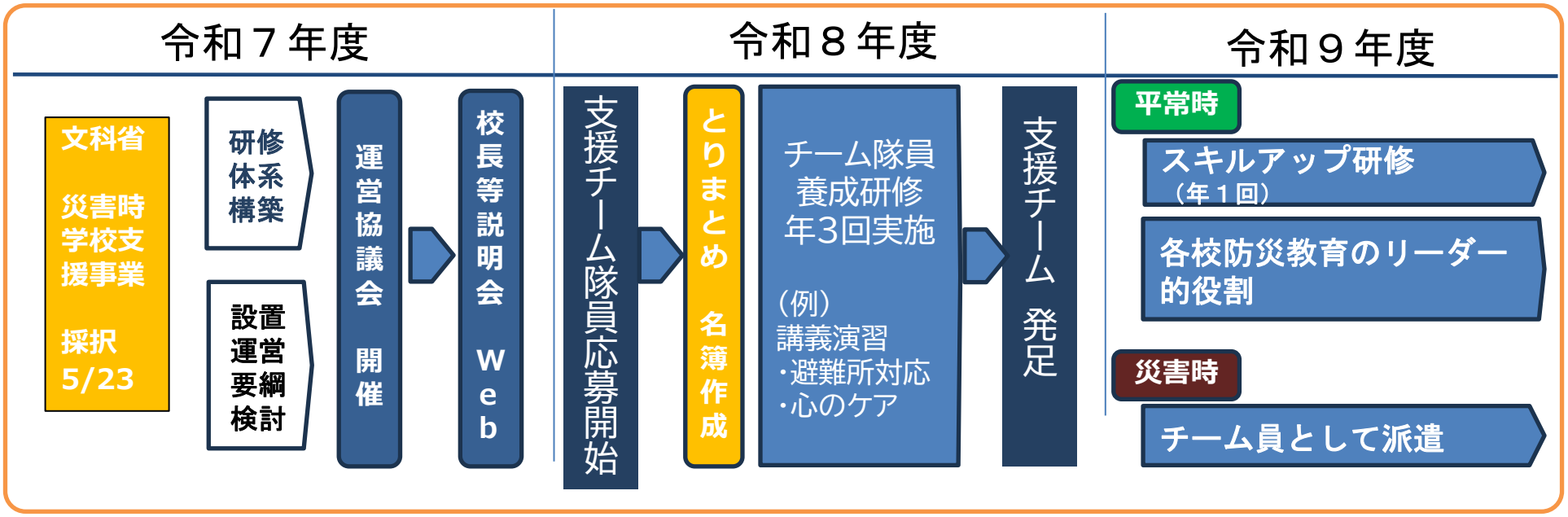
１．石川県　学校支援チームの概要

◊ねらい　能登半島地震を踏まえ、今後の災害発生時の備えとして、県内外の被災校に対して災害時の学校運営に関する専門知識と実践的能力を備えた教職員を派遣し、支援体制を構築する。

◊予定人数　100名程度　【災害時】・３～４名のチームを複数、被災地に派遣
・活動期間は、移動・引継ぎを含め4日程度

◊組　織　運営協議会（県教委、市町教委連合会、高校長協会、小中学校長会、特支学校長会、県教組、高教組）を設置し、チーム運営・募集・育成等の方針を協議

◊発足の流れ



1．石川県　学校支援チームの概要

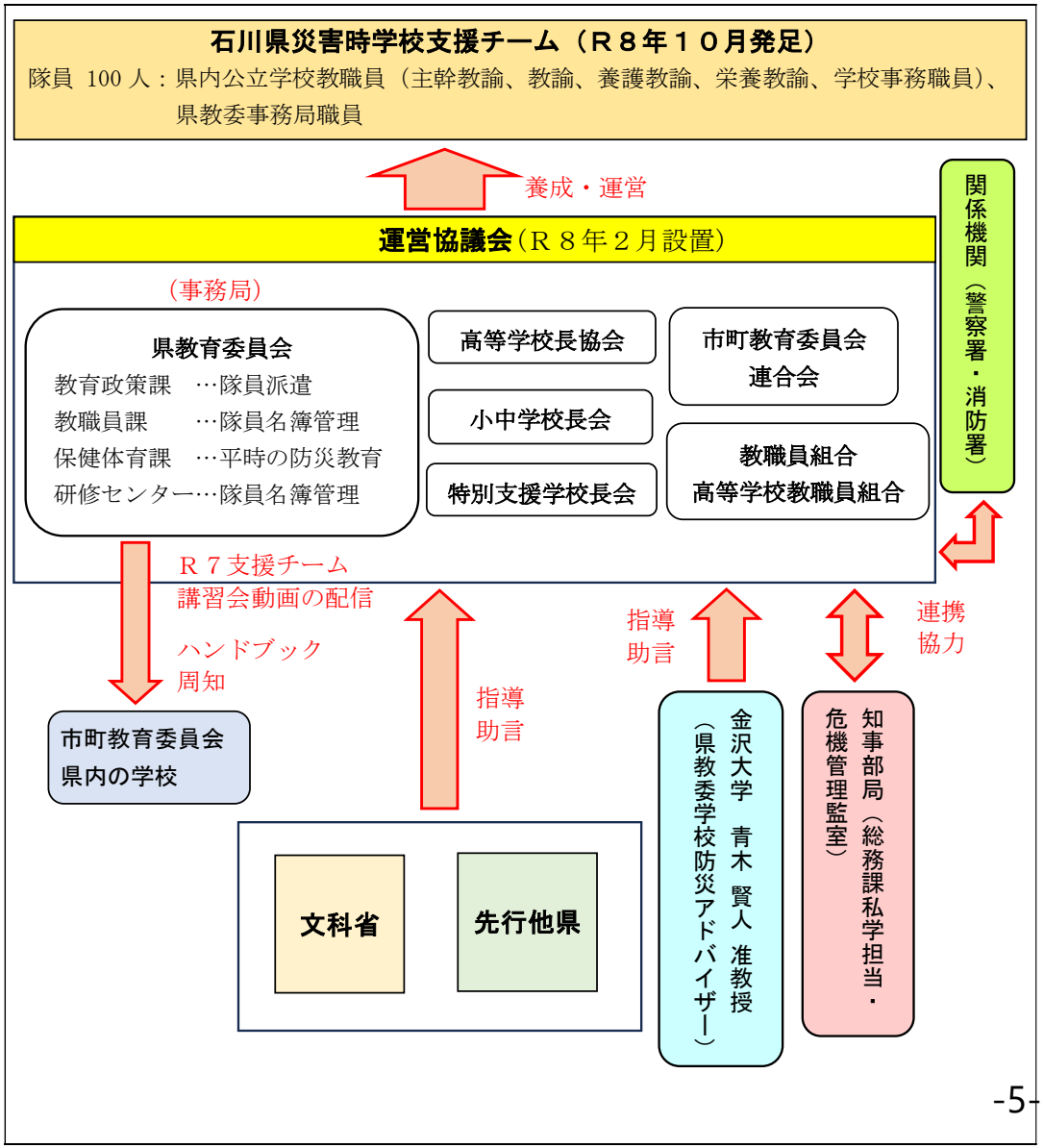
検討事項	先行自治体	石川県
隊員 目標人数	岡山：200人以上 兵庫：250人（過去派遣実績を踏まえて）	人口規模も踏まえ、1チーム3人、1派遣あたり3チーム 1派遣活動の日数を4日として1.5ヶ月活動 3人×3チーム＝9人×12期(45日/4日)≒100人
隊員職種	県によって、管理職・市町村教委職員を含む/含まないの差異あり	公立学校の主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、学校事務職員、県教委職員（教員職・行政職） ※管理職は対象外 ※市町教委職員は県費負担職員ではないため、旅費等負担の関係から対象外
隊員 募集方法	「市町村教委又は県立学校の推薦（本人希望必須）」又は、「本人応募（校長承認必須）」	市町教委又は県立学校の推薦（本人希望必須）
隊員任期	調査を実施した7道府県中6道府県で任期なし（兵庫のみ、2年ごとに再委嘱）	任期なし
準隊員 制度	熊本：管理職に登用された場合 三重：管理職あるいは公立学校や教委以外の所管部署に異動となった場合 兵庫：市町村教委へ異動、産休育休等で一時的に隊員を外れる場合(待機者)	隊員が管理職に登用された時、対象外の所属に異動した場合は、準隊員として登録。 ※準隊員の役割としては養成研修の講師等

2. 意義・効果の周知　（１）運営協議会

【石川県災害時学校支援チーム運営協議会 設立会】

●令和８年２月１６日（月）開催
審議：運営協議会規約(案)
協議：設置運営要綱(案)
　　令和8年度隊員養成研修計画 (案)

〈設立会参加者からの意見〉
◆自己都合による準隊員への移行や隊員への復帰を可能とする、柔軟な運用を検討してほしい
◆隊員を応募する際、被災地で支援を受けた校長の声を伝えるなど、教職員の熱量を高める工夫が必要
◆校種や職種、男女比、地域等のバランスを考慮することが望ましい



令和６年能登半島地震　概要

◇１月１日16時10分頃、能登地方にＭ7.6地震発生

◇奥能登・中能登地域を中心に、全県的に（県内学校の約８５％）
学校の敷地・設備等に被害が発生

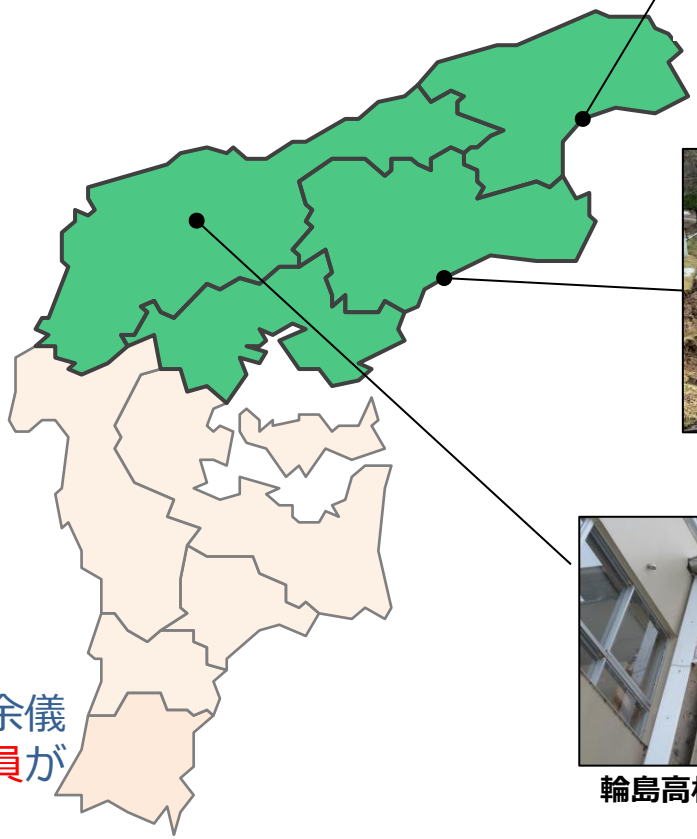
◇被災に関する主な課題点

（１）大津波警報が出たこともあり、校舎や体育館に地域の方々が押し寄せる

（２）学校が避難所となり学校再開の見通しが立たない状況

（３）地震による心身の不調、避難所生活、今後の生活や進路等、不安や困り事を抱えた子どもが多数生じる

（４）居住家屋が被災したことにより避難を余儀なくされ、勤務校に通勤できない教職員が多数生じる



飯田高校（地盤沈下）

能登高校寮（敷地崩落）

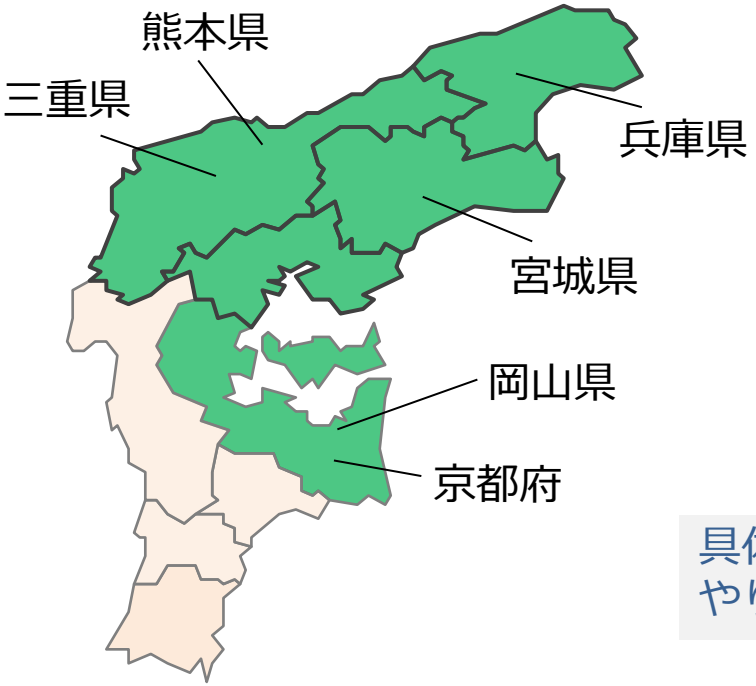
輪島高校（校舎継ぎ目破損）

他府県からの学校支援チーム来県

教員の多くが、学校の避難所運営に関わらざるを得ない中、学校の早期再開に向け、
６府県の「学校支援チーム」が発災直後から被災地に入り支援を展開

都道府県	兵庫県	熊本県	岡山県	三重県	宮城県	京都府	計
派遣人数	103	51	29	46	20	11	260
支援先	珠洲市	輪島市	七尾市	輪島市	能登町	七尾市	-

令和6年
3月31日時点



◇学校支援チームの動き（例：兵庫県の場合）

1月 4日　本県教委に支援の申し出の連絡入る
1月 5日　先導隊4名が来庁し趣旨説明を受ける
1月 6日～　２市町の実態視察
1月10日～　第２先導隊の実態視察
1月15日～　第１次派遣隊の派遣開始
3月11日～　第９次派遣

具体的な支援内容、宿泊施設の確保は、市町教育委員会とのやりとりで調整

他府県からの学校支援チームの活動内容

各学校支援チームは、教委や学校と随時意見交換を行いながら、
支援ニーズを踏まえ、支援を臨機応変に実施

学校が再開する前の活動内容（例）

・倒れたロッカーや書庫などの整理、散乱書類や図書などの片付け
・教材の準備、学習場所の確保、机や椅子の調整
・オンライン授業のための通信環境の整備
・仮設トイレの設置、健康チェック実施法の検討

学校が再開した後の活動内容（例）

・登下校時の交通指導
・現地教員の代替授業、オンライン授業の支援
・特別支援学級の支援、心のケア授業のサポート

その他の活動内容（例）

・教科書再給与冊数調査、不足学用品の調査、
・教職員の災害見舞金請求事務等の支援、児童生徒の転校手続き

2. 意義・効果の周知　（２）校長等説明・講習会

【災害時学校支援チーム事業説明・講習会】

●令和８年２月２５日（水）開催

●内容：事業説明・講習会

支援側、受援側の両面から、支援チームの意義について講演

講演①

災害時学校支援チームの活動意義について
～災害・学校支援チームEARTHの活動を通して～

講師：兵庫県EARTH員　三好　拓也　氏

◆EARTH設立の背景と目的
◆災害時に学校が直面する課題と支援の必要性
◆EARTHの活動事例（奥能登での支援実績を中心に）

講演②

令和６年能登半島地震における学校再開への支援について

講師：奥能登教育事務所長　山岸　昭彦　氏

◆災害発生後の学校の状況
◆学校の再開に向けて
◆EARTHによる学校支援

※３月中に、県立学校長以外の公立学校管理職に編集動画を配信して周知を図る

〈三好氏のスライド資料より〉

災害時の学校

【学校再開】

- 児童・生徒にとってどんな形であれ学校に登校し、友だちや先生と過ごす時間は大切
- 保護者にとっても、児童・生徒が学校に登校している時間は仕事や家の片づけ、様々な手続きなどができる大切な時間

→早期の学校再開が望まれる

教職員も被災者

〈山岸氏のスライド資料より〉

３　EARTHによる学校支援

混乱期（環境整備）

学校再開に向けての準備　１月１０日～

・「何かありますか」
・「大丈夫ですよ。また気づいたことがありましたら、遠慮なく言ってください。」
・「校舎内外の様子を見せてもらっていいですか。」
・「大丈夫ですよ。僕達自分でやるべきことを見つけてやっていきますので。」

癒し期（共感・思いやり）

学校の再開後　１月２２日～

・周りの様子を把握してすぐに動いて支援してくださる。
・具体的な支援を依頼されなくても何かしら仕事を見つけて動かれている。
・業務の相談がしやすく、サポートしてくださる。（教員としての強み）
・自分の思いを受け止めてもらえた。（大きな災害を経験した同じ教職員として）
・教職員への心遣いが本当にありがたかった。（持参されたのど飴を配ってくださったこと、派遣後もメール等で連絡をいただき、心配してくれていることなど）

回復期（生活習慣・自己コントロール）

13

３．隊員の養成

研修概要

①研修人数：100名程度（目標）

②研修日程：3日間（6月～10月）

③研修対象：県内公立学校の教職員
及び県教委事務局職員

研修内容

【第１日目】 R8年6月30日予定

①能登半島地震における学校再開への対応

・講師：珠洲市教育長、輪島高校長（当時）
・ポイント：学校再開までの流れ
NPO法人、支援チームからの支援
中学生の集団避難　等

②能登半島地震における学校避難所の対応

・講師：輪島市教育長、飯田高校長（当時）
・ポイント：避難所運営の支援、開放区域の検討
避難所での児童生徒への支援　等

③能登半島地震の体験談

・講師：被災した学校の教職員
（教員、養護、事務　栄養）
・ポイント：実際の体験
フリートーク

【第２日目】 R8年9月8日予定

①災害時学校支援の基礎知識

・講師：先行自治体支援チーム員等
・ポイント：本県の支援にあたってのノウハウや留意点

②児童生徒・教職員の心のケア

・講師：金沢大学教授等
・ポイント：被災児童生徒のアンケート結果と心のケア授業
学校医、ＳＣ、ＳＳＷ等との連携

【第３日目】 R8年10月7日予定

①学校再開までの学習支援

・講師：奥能登中学校の学校長等、県教委職員
・ポイント：実際の対応、支援チームからの支援

②学校避難所運営の方法

・講師：本県防災部局職員等
・ポイント：避難所運営において教職員に求められる対応

③石川県の防災体制

・講師：本県危機管理担当職員等
・ポイント：防災教育の必要性

④防災教育の推進

・講師：金沢大学教授等（地域防災）
・ポイント：防災教育の見直し

３．チーム員の養成

第１章

＜地震の概要＞

地震発生時刻	令和６年１月１日１６時１０分	
震源地	石川県能登地方（震源の深さ　１６ｋｍ）	
地震の規模	マグニチュード７．６（最大）	
県内の震度	震度７	志賀町、輪島市
	震度６強	七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
	震度６弱	中能登町
	震度５強	金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
	震度５弱	白山市、津幡町、内灘町
	震度４	野々市市、川北町
津波	１日　16時 12分　津波警報　発表（石川県加賀、石川県能登） １日　16時 22分　大津波警報に切り替え（石川県能登） １日　20時 30分　津波警報に切り替え（石川県能登） ２日　1時 15分　津波注意報に切り替え（石川県加賀、石川県能登） ２日　10時 00分　津波注意報解除（石川県加賀、石川県能登）	

第５章・第６章

こころと体のけんこうチェックシート　　20　年　月　日

名前	年	組	番号

このシートは、自分のこころとからだの健康をふりかえり、「こうすればいいよ」という方法を学ぶためのものです。でも、やりたくないと思った人は、やらなくていいです。とちゅうでやめてもいいです。それでは、こたえてみましょう。

	この1週間(先週から今日まで)に、つぎのことがどれくらいありましたか？　あてはまる数字に〇をしてください。	ない	すこしある 1、2日ある	かなりある 3~5日ある	ひじょうにある ほぼ毎日ある	こうするといいよ
1	なかなか、ねむれないことがある	0	1	2	3	ねむりのためのリラックス
2	むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとしたりする	0	1	2	3	おちつくためのリラックス
3	こわくて、おちつかないことがある	0	1	2	3	こわい気もちはいのちをまもるたいせつなきもちだよ
4	学校では、たのしいことがいっぱいある	0	1	2	3	楽しいことをいっぱいみつけよう

〈こころのサポート授業スライド資料〉

1年後のこころと体の反応と対応

- あれから1年、テレビなどで災害（さいがい）のニュースが増（ふ）えてくると、落ち着かなくなったり、つらいことを思い出して不安になったりすることがあります
- それも、とても自然な変化です
  - けっして悪くなっているわけでも、心が弱いわけでもありません
- つらい時、心配（しんぱい）な時は…
  - リラックスする　：　リラックス法もときどき試してみよう
  - 話をきいてもらう　：　担任や保健室の先生、カウンセラーなどに相談する
  - 気分をかえる　：　楽しいこと、熱中できることをする

【章立て】

第1章　能登地域を襲った大規模災害概要
第2章　隊員の推薦・登録・研修体制
第3章　発災直後の活動
第4章　学校再開の支援活動
第5章　心のケア事例（発災から6か月後）
第6章　心のケア事例（発災から1年後）
第7章　資料編（本県地域防災計画）

◆先行自治体のハンドブックを参考に作成
◆能登半島地震から６か月後、１年後に行われた本県の「こころのサポート授業」において実際に使用された資料を掲載
◆支援チーム説明・講習会参加者に配付

４．各自治体への参考ポイント

◆養成研修プログラムの設計

- 先行自治体の養成研修視察
- 講師（本県では能登地震に対応した関係者を軸に構成）
- 講義と演習のバランス

実際に大災害に遭遇した経験

他府県からの支援を受け、
感謝の念を抱いた経験

◆県教委内部の役割分担

- ・隊員推薦・派遣 ⋙ 教育政策課
- ・研修運営 ⋙ 研修センター
- ・隊員名簿管理 ⋙ 教職員課
- ・平時の防災教育 ⋙ 保健体育課